

ゲーム感覚で楽しむオリエンテーリング

初心者にとってとっつきにくい地図を使うオリエンテーリングも、工夫次第では楽しめるゲームに！

フラワーウォーク

フラワーウォークは愛知県オリエンテーリング協会が、底辺からの普及のために開発したオリエンテーリングを主体としたゲームである。一般の人も数多く訪れる県内の公園で、その公園に多い花の咲く時期を中心に行なわれている。事前申し込みや成績表の発表などは一切なく、当日のぼりを立ててその場で勧誘、着替えなし、表彰式もなしという気軽なイベントである。「フラワーウォーク」という、敢えてオリエンテーリングの名を使わなかったのも、オリエンテーリングだと長くて疲れる等、ネガティブなイメージがあるからだという。

コースは通常2 kmほどで、ほとんどが園内の園路を通るコースとなっており、オリエンティアから見たら、ほとんど間違いなくいけるようなものである。ナビゲーションという面では難しくないフラワーウォークの目玉は、各コントロールに用意されたクイズである。

自然クイズ Q5



森林は、川の水が大雨で急増して洪水になったり、日照りで水が干れたりしないようにしてくれる働きを持っています。この川の水の量を調節してくれるので、森林は何と呼ばれているのでしょうか？

- A 緑のダム
- B 天然のダム
- C 雨水のダム

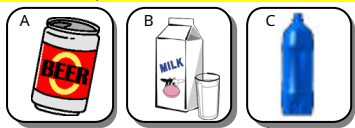
地図クイズ Q5

次の6番の様子で正しくないのはどれ？



- A 湿地の横にある
- B 分かれ道にある
- C かけの下にある

キッズクイズ Q5 木からできているのはどれ？



フラワーウォークのクイズ例

しかも心憎いことに、どのコントロールにも必ず3つのクイズが用意されている。一つは大人向けのクイズで自然や環境に関するものが多い。もう一つがナビゲーションクイズで、地図を読んで周囲の状況を答えたり、次のコントロールへのベストルートに答えさせるものだ。さらに子ども用が、アニメのキャラクターを当てるといったクイズだ。フラワーウォークの参加者は公園を訪れた家族連れが多い。家族みんなが楽しめるようにという配慮が伺える。

一見するとナビゲーションクイズは簡単に思えるが、参加した元指導学生によると、3つも答えを間違えたという。地図を読むということは意外と難しいことなのだが、それをクイズ形式にすることで、少しでも地図やナビゲーションに対する興味関心を高めてもらおうというのが狙いである。

今年度は、住宅産業のスウェーデンハウスがスポンサーとなって、地図を無料で配布することができた。それ以前に有料であった時代にも、年8-10回程度のフラワーウォークが毎年行なわれており、のべ参加者は2000人を越える年もあったというから、ある意味、一大オリエンテーリングイベントと言える。

名称にオリエンテーリングを使わない点には賛否両論があるだろう。またこれが、本格的なオリエンテーリングの普及につながっているかという点では、やや疑問がある。しかし、初心者への気軽な導入という点では「アイデア商品」と言える。

こうしてオリエンテーリングに接した参加者を、どう本格的なオリエンテーリングに導くか。そこに今後の発展の鍵がある。

鬼久保ふれあい広場

愛知県作手村

Onikubo Fureai Hiroba
Tsukude Village Aichi Japan



フラワーウォークの地図 (世界選手権併設)

ビンゴオリエンテーリング

筆者が、大学の授業でよく使うのがこのビンゴオリエンテーリングである。地図には16(ないし25)個のコントロール円が描かれている。ただし番号は打っていない。参加者には、地図の脇に書かれた4×4(または5×5)の枠の中に、好きな数字を入れさせる(4×4の場合は1から16まで、5×5なら25まで)。ここまでで準備終了。

スタートと同時に、参加者は好きな選んだコントロールに行く。そこには番号が書いてあり、参加者はそのコントロール番号に相当する番号を書いたマス目にパンチを押す。1列(ないし2列)にパンチが並べばゴールできるという、まさにビンゴ形式のオリエンテーリングである。ゲーム性はあるが、コントロールを探すこと自体は正統なオリエンテーリングである、両者がバランスよくミックスされたオリエンテーリングで、学生の評判もよい。

(村越 真)